

【最優秀賞】



氏名 ネパール ギタ
国・地域 ネパール
在日期間 1年9ヶ月
所属 九州日本語学校

タイトル：村で初めて留学した女の子

「ノートを買いたいのでお金をください」

私は父に頼みました。小学生のときの話です。

父は、私に10ルピーをわたし、そして、こう言いました。

「勉強のためのお金をあげるのは、来年までだよ」

つまり、『小学校を卒業したら学校をやめて仕事を手伝え』という意味でした。

ネパールの電気もない、道路も整備されていない、教育の大切さもあまり理解していない、そういう大人の人たちがたくさんいる小さな村。そんな場所で私は生まれました。村の子供たちは、朝4時に起きて、1時間歩いて水をくみに行ってから、学校に向かいます。1時間山道を歩いて、ようやく着いた学校には先生が来ていないことも、学生が半分以上欠席していることもよくありました。でもこれはネパールではめずらしいことではありません。勉強より優先させるのは村での仕事。学校以外の時間は農作業を手伝い、お米の収穫期のときは、学校を休まれます。もちろん家族の手伝いは大切です。でも、家族にさえ学校に行くことを反対されるような環境にいる、そんな子どもたちは、夢を持つことができるのでしょうか。子どもたちの将来はどうなるのでしょうか。

私は「この村のみんなの考え方を変えたい！子どもたちが夢を持てるような村にしたい！そのためには、自分がもっと勉強して成長する必要がある。留学して、世界を知りたい！」私は父にお願いしました。

「勉強させてください！」

自分の意志で勉強を続けるために留学したのは、村の女の子で私が初めてでした。女の子が一人でどこかへ行くことさえ許されないような村から外国に留学するというのは、村の人々にとってとても不思議な考えでした。私の村では女の子たちは早く結婚し、夫の家に住んで家事をします。私も早く結婚するようにと家族や親せきや村の人々にせまられました。何度もじやまされそうになりました。心が折れそうなときもありました。私は自分の夢がどこかに消えてしまうのではないかととてもこわかったです。でも私はあきらめたくなかった。自分の可能性を信じ、ちょうせんし続けました。

「勉強のためのお金をあげるのは来年までだよ」

と父が言ったとき、もしあのとき、私が「はい、わかりました」と言って、父の言うこと聞いていたら、私は今ここでスピーチをしていません。村で他の多くの人々がそうしてきたように、小学校で勉強をやめていたら、今ごろ、家の手伝いをしながら早く結婚し、子どもを育てていることでしょう。でも、あのときぜったいに自分の勉強をしたいと言う気持ちをあきらめたくなかった。

皆さんは、子どものときにどんな夢を持っていましたか。どんな夢だっていいんです。それなのに大きくなると色々な問題が増えてきて、みんなだんだんと自信をなくしてしまいます。でも、あきらめないでください。たとえ家族ができないと言っても、あなたは自分を一番信じてください。あなたのあきらめない心が未来のドアを開く『かぎ』になるのです。人生は一回しかありません。私がこれまで夢をかなえるために歩いてきた道はかんたんではありませんでした。でも今ちゃんと実現しています。そして今度は、『家族のために、村をもっと良くするために何かやりたい』と言う次の夢があります。今まで頑張ってきたように これからも自分の可能性を信じて、ぜったいにあきらめません。将来、ネパールにもどって夢がかなったすがたを、村の子どもたちに見せてあげるつもりです。

どんな場所でも、どんな状況で生まれても、あきらめなければなりたい自分になれるんです！

